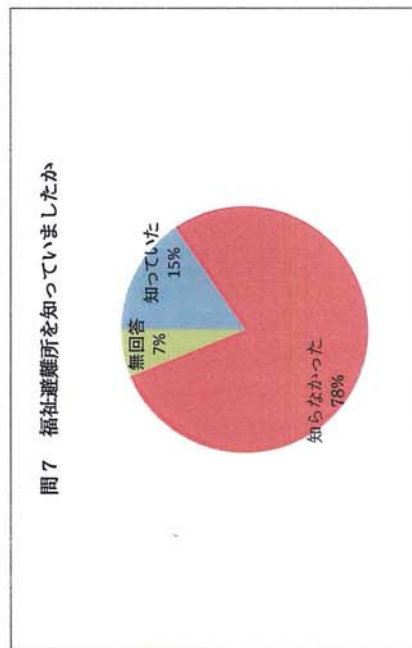


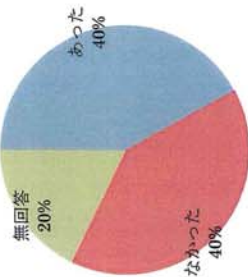
問7 「今回の震災で、仙台市をはじめいろいろな所で「福祉避難所」ができました。		
	知っている	無回答
(1) あなたは「福祉避難所」を知っていましたか。	25	10
	行った	無回答
(2) あなたは「福祉避難所」に行きましたか。	2	18
	行った	無回答
	2	18
	行った	無回答
(3) 行かなかった理由や行ってみたいの感想・要望などがあればお書きください。		
① 「知っていて、行った」方の感想等		
* 助かりました。		
② 「知っていたが、行かなかった」方の感想等		
* 自宅・入所施設が無事だったので、行かなかった。		
* 一般の避難所に避難した。		
* 親戚宅等に避難していた。		
* 病院等に対応していただいた。		
* 近くになかった。		
③ 「知らなかった」方の感想等		
* 入所施設・自宅等にいたため、知らなかった。		
* 福祉避難所があることを知らなかった（情報がなかった）。		
* わからなかったので行かなかった。		
* 自宅でも充分生活できたが、今後のために福祉避難所等の情報など把握しておきたい。		
* 今後一人になったときに利用したいが、場所がわかりません。		
* 生活面で特に困ったことはなかった。いつ震災が来ても1週間ぐらい生活できるような心がけ、食料やその他のものを確保していた。		
* 一般の避難所は、障害のある方もそうでない方もいっしょによかったです。		



問6 今回の震災で、いやな思いなどをしたことはありませんか？
<p>避難所などのトイレ関係 (13)</p> <p>* 車いす用トイレがなかった (2) * 洋式トイレがなかった。 * 避難所で汚れたトイレを使用しなければならなかった。 * 津波警報で一時的に避難したが、避難所の車いすトイレが使用できなかった。 * オムツ換えの場所 (個室) がなかった。 * 避難所にバリアフリーのトイレをつくってほしい。 * 学校に避難。車いす用トイレのある避難所を希望したが、空きがなくて入れなかった。仕方なく、車いす用トイレのあるスーバーまで毎日歩いて行っていた。 * 避難所にいると、子供もいるのでいろいろ大変で、親戚からすぐにアパートを探してもらった。 * 震災でトイレの水が出なくて手も洗えず、母と二人1枚のウェットティッシュを半分にして使っていた。 * 車いす用トイレがないため、避難所へ行っても大変だったと思う。 オムツ使用なのでなおさら。 など</p> <p>入浴関係 (5)</p> <p>* お風呂に入れなかった。 (3) * 何日もお風呂に入らず、そのうえ生理にもなってしまう、下着もなかった為、オムツをはいていた。 * 何度も避難所に行くことを考えたが、集団生活ができる体でなく、生理も重なり皮膚トラブルになった。 など</p> <p>その他 (23)</p> <p>* 電気がなく、夜暗くて怖かった。 * 電気がこなかった。 * 買い物に行ってうーんと並んだ。 * 家族の安否確認ができなかった。 * 行政の対応には、いろいろと不満が残った。 * 民生委員は一生懸命対応してくれた。 * 私たちのように障害をもっている弱者に、もっと配慮がほしかった。 * 交通手段のための車が流れてしまい、移動手段がスムーズにいかなくなった。 * 日中車いすに乗る時間が短くなった。自分で何もできなくなった。 * 地震がたびたび起こり嫌だった。 * 就寝中に余震があつて眠れなかった。 * 気落ちが落ち着かず、体調不良を起こした。 * 地震の時、危なく車イスから落ちそうになつて怖かった。 * いろいろなとあつた。 * 勤め先から落ち着くまで来なくてよといと言われた。 * どこでも親切にしていたとき、不自由なこともなかった。 * 避難所の生活を思い浮かべると、不自由ながらも自宅にいられる幸せを感じた。 など</p>

問9 同窓会では、今後の災害などがあつた時に備え、安否（無事かどうか）の確認の範囲や方法などを検討したいと思っていますか？	はい	いいえ	無回答	計
(1) 電話での安否確認を希望しますか？	62	80	20	162
(2) (1)で「はい」と答えた方にお聞きします。電話がつかない時、可能であれば自宅へ訪問しての安否確認を考えていますが、それを希望しますか？	40	37	85	162
問9 (3) 今回の震災の時、行政や他の団体などからの安否確認はありましたか？	68	65	29	162

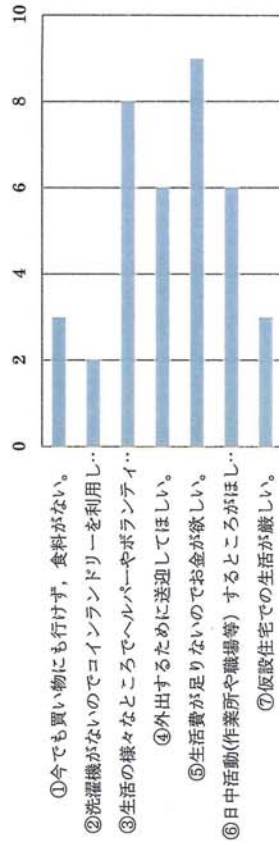
問9 行政等からの安否確認はありましたか？



問8 被災の後や現在の生活の中で困っていることや要望などはありますか？【複数回答】	
①今でも買い物にも行けず、食料がない。	3
②洗濯機がないのでコインランドリーを利用しているが、お金が続かない。	2
③生活の様々なところでヘルパーやボランティアがほしい。	8
④外出するために送迎してほしい。	6
⑤生活費が足りないからお金が欲しい。	9
⑥日中活動(作業所や職場等)するところがほしい。	6
⑦仮設住宅での生活が厳しい。	3
⑧その他	

* 家が半壊で、建て替えるので金銭的にも仮住まいにも困っている。
 * 日常生活に支障はないが、家が半壊でまだ復旧せず落ち着かない。
 * 風呂が狭くて入りにくい。
 * 失業中、仕事がなくなった。
 * 作業所が被災し、今後が不安。
 * 余震が続く中で子供を1人にしておけず、長時間の時は一緒に行動している。
 * 先のはわからないが、年を取って独り暮らしになったらと思うと不安。
 * 家庭の急な用事の時に対応してもらえない制度がほしい。
 * 体育館やプール等の施設が使えず、体を動かしたりスポーツをする機会がほとんどない。
 * 特になし。 など

問8 被災後や現在の生活の中で困っていることや要望などは？ (単位:人)



*震災時も施設の先生方が対応してくれてくれたので安心していました。その後も安否確認や施設がはじまるまで生活の様子を見に来てくれました。

*震災後の同級生の安否などは連絡をしてないので今も知りませんが、3.11は母と買い物物の帰り仙台駅地下で地震になり家には帰れず市内の避難所小学校へ行きましたが、教室に50人ぐらいい避難の人がいてびびりしていました。

*いろいろなところで福祉避難所ができたところとアンケートに書いてあったが、全然知らないのて教えてほしい。できれば地図もあると助かる。

*クラフスマイトはみんな元気。今回のことで引越さざるを得なくなりましたが、直後はドアが開かなくなりました。団地の方6人ぐらいいの男性に部屋から出していただき感謝している。(普段は両松葉つえ) 自立歩行はできないが、避難所には歩いて行けた。

*震災の被害情報や生活情報は施設支援員に毎日話してもらった。

*卒業したばかりで祖父母と在宅時の被災で運が良かった。4月より施設利用、5月よりケアホームに入所、充実した生活を送れている。

*安否確認が困難。電話・携帯・警察・手紙などいろいろな方法をとったが確認が取れなかった。肢体不自由児協会の人へのメールで運よく所在が分かったが、道路事情やガソリン不足ですぐに面会には行けなかった。

*避難所へは車いすに乗って職場の人と一緒に歩いて。情報は新聞やラジオから集めた。

*食料・衣類・ガソリンにも困っている状態。救援物資が自宅にいても届くとよいと思った。水・ガソリン・食料で何時間も並んで待つことが困難だった。

*ライフラインがないときは近所の人と話をして情報収集し、復旧後はテレビや電話で情報が入った。同級生の安否は、仲の良い友達に連絡し合ったりしりばらくして会って会った。避難は近所にお年寄りもいるのていいかかった。車いすなのでトイレや寝る場所もないので自宅にいた方が安心できるし、人数もいたのだ。

間10 その他、お気づきのことがありましたらご自由にお書きください。特に、同級生の安否に関することや避難先の被害情報や生活情報はどのようにお書きください。他にも、避難所などのように行っていること、震災の被害情報や生活情報はどのようにお書きください。(8)

*被害情報や生活情報、安否は、テレビやラジオ・新聞・電話などで知った。(8)

*ラジオを聴いたり、近所の方や会社に行っている父から話を聞いたりした。

*コンビニやイオン、ヨークタウンの情報を職員から聞いていた。

* (入所施設)の職員からお話を聞いたりした。(2)

*被害情報・新聞、市の文書を区長が届けてくれた。

*平日の日中に発生しましたので施設に入所・通所している人にとっては介添えをされた方もいらしたと思いますが、在宅でひとりだったら、夜間だったらと考えると何とかならないかと考えてしまいます。移動手段に手間がかかりますので誰かが傍にいる必要が生じます。それをどうすれば・・・と自宅で大きな被害はなかったが、本人に理解する能力がないため、こだわりの生活リズムが崩れ、ストレスからの自家中毒で2日間点滴に通った。ガソリンがなく仙台のかかりつけの病院に行くこともできず、地元の委員に受け入れてもらい助かった。郡部で専門医もなく、隣市の重いのが今回のような状況下でスムーズに受け入れてくれる医療システムの整備を望む。

*会社が機能停止したため、見知らぬ人に近くの中学校まで避難させていただき(車イス使用なので坂をおしてももらった)3日後母方のいとこと連絡がとれ秋田から迎えに来て、3ヶ月間避難していた。親は避難所について、バリアフリーでないといけないこととできなかった。仮設が7月に当たり、宮城に戻った。

*電話もメールもPCも全部だめ。ガソリンもなく各避難所に歩いて行って安否確認をした。情報は何一つ入らず。家に米や野菜、沢に水、店の肉などがあり人に分けてやった。七輪で炊き出した。そういうことが人づてに伝わり避難している人が家に集まって、診断。

*震災時…平成22年度、仙台市による耐震診断を希望し、診断にそって耐震工事を終えていた。(2ヶ月かけて)震災被害はありませんでした。町内の防災訓練に参加し避難所への見学、通り方などに参加する中で、自宅での避難生活をするために工事(耐震診断による工事を終えた)でした。大変でしたが、本当によかったです。

*震災の情報は、ラジオ(手動手回し)と新聞がすべてでした。ライフラインの中で一番必要なのは電気がたと思う。15日夕方から電気が復旧するとインターネットで生活情報収集。食料、水が備蓄してあったので、カセットコンロで調理、近所の人にも数日間届けてあげた。

*施設に入所しているのがスタッフの方と一緒に避難しているいろいろなところから来た。避難先ではいろいろ我慢することばかりで大変だった。

*前の住居が壊れたため、次の住居を探すのに困りました。

*施設から作業着のまま、施設で一緒に避難して、親が迎えに来るのを待った。その後、親の車の中で一晩過ごし、被害情報は、車のラジオやワンセグから得ることができた。自宅へ戻ってからはラジオから被害情報、町の町内放送から給水や電気・ガスなどの復旧情報を集めていた。

*生活情報(被害者の支援センターなどの情報)は、友人・知人からのメールにて収集できた。とても助かりました。重度の被害者は、電源がないと命にかかわってくるので、できれば病院を開放してもらえたらいいと思います。避難所は空気があまり良くなく、様々なストレスで体調を崩しやすい!実際崩して救急車で入院となりました。

*自分に必要な薬や医薬品は何かあったかのために、別に用意して、すぐ持ち出せるところに置いておくのと良いと思います。今回、わたしもそうしておかかげ助かりました。

*震災後、2週間くらいに、県肢体不自由児協会と連絡が取れて、そこから、各種支援団体からおむつや重度の方が必要なものの支援がされることを知り、近隣の重度のお子さんを持つ方々に連絡しました。

*車椅子用の仮設トイレ、仮設住宅が必要だと思う。一般の避難所でも充分に生活ができるようにしてほしい。そのためにはまわりの協力も大切になってくるが、本人の工夫も必要なのだと思う。これからの被害者当事者の課題だと思う。

*家が流出してしまったので、同級生の名簿や写真が欲しいです。